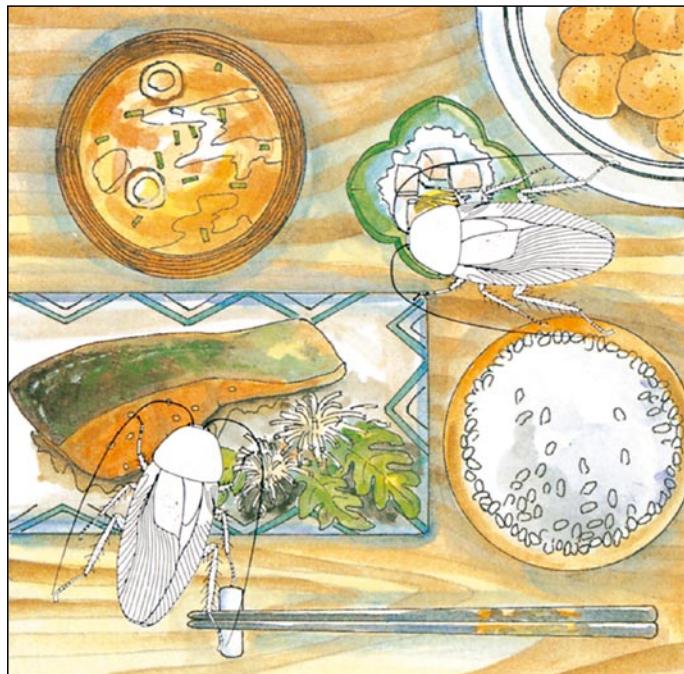


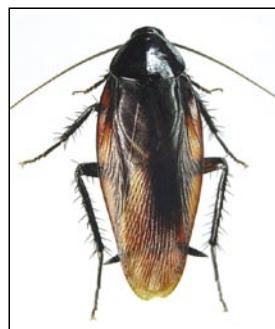
不潔の象徴 ゴキブリ



多く見かける種類

ゴキブリは約3億年前に地球上に現れた昆虫で、現在でもほとんど当時の姿のままでいます。日本では50種ほどが知られていますが、大半は野外に生息し、屋内で定着しているのは僅かに数種に過ぎません。

クロゴキブリ

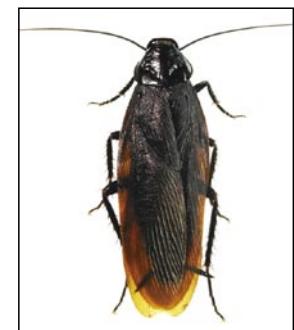


クロゴキブリ

成虫の体長は30mmほどで、全体に黒褐色で光沢があります。幼虫は羽がなく、ごく小さなうちを除けば赤褐色をしています。厨房(台所)、ゴミ置場、ベランダなどでよく見かけます。

ヤマトゴキブリ

成虫も幼虫もクロゴキブリと似ていますが、やや小型でほっそりとし、黒味が強く、艶も少ないので特徴です。雌では羽が体の半分までしかありません。東京では屋内で見かけることはそれほど多くはありません。



ヤマトゴキブリ



チャバネゴキブリ

チャバネゴキブリ

成虫の体長は15mmほどで、成虫は全体に黄褐色で胸の背中側に2本の黒い筋があります。幼虫は羽がなく黒色で、背面に黄褐色の模様があります。



す。飲食店、ビル、マンションなど冬でも温度があまり下がらない場所に多くいます。

その他

建物によってはこの他、ワモンゴキブリ、トビイロゴキブリ、キヨウトゴキブリなども定着していますが、東京の住宅ではあまり見かけません。

習性など

一般に20°C以下の低い温度は苦手ですが、普通は明るい内は暖かい、暗い、狭い場所に潜んでいて、夜間に出てきます。クロゴキブリは庭や屋外のゴミ集積所などに生息して、家屋内に侵入します。チャバネゴキブリは物と一緒に家に持ち込まれることも多いのです。雑食性で、僅かな水分と食べ物の破片でもあれば、生息に不自由しません。卵は豆のように鞘に入っていますが、一つの卵鞘にはクロゴキブリで20個前後、チャバネゴキブリで40個前後の卵が入っています。ですから幼虫がいる場合には、1匹だけではなく何匹かいると考えて下さい。発育の期間や寿命は表に示してあるとおりです。

ゴキブリの生活史

	卵期間	幼虫期間	成虫の寿命	産卵回数
クロゴキブリ	31~47日	84~112日	4~5ヶ月	約17回
チャバネゴキブリ	20日	30~70日	4~7ヶ月	3~10回
ヤマトゴキブリ	27~42日	98~140日	3~6ヶ月	約25回
ワモンゴキブリ	32~41日	90~200日	♀6~14ヶ月 ♂3~25ヶ月	20~40回

媒介する病気

ゴキブリは不快感を持つ人が多いようですが、それだけではなく汚い場所ときれいな場所の区別なく歩き回りますから、非常に不潔な害虫です。汚い場所にある雑菌類を体に付けて、



食品上などあちこちを歩き回ります。最も多いのは食中毒の原因になるサルモネラ菌です。表にゴキブリが運ぶ病原体の一例を示しました。

ゴキブリが運ぶ病原体

病名	病原菌	ゴキブリの種類	菌発見部位
食中毒腸炎	サルモネラ菌 (S.typhimurium)	チャバネゴキブリ ワモンゴキブリ	消化管
腸チフス	チフス菌 (S.typhi)	トウヨウゴキブリ	脚・糞
赤痢	赤痢菌	ワモンゴキブリ	消化管
小児麻痺	小児麻痺ウィルス	ワモンゴキブリ	消化管・糞
化膿症	スタフィロコッカス	チャバネゴキブリ	体表

ゴキブリは明るいうちは人目につくところには出でこないものです。夜間、流しながら食器や残飯をそのままにしておくと、人が寝ている間にそこを餌場にします。ゴキブリを見かけないからといって油断するのは禁物です。

対 策

ゴキブリを退治する上で最も大切なことは、清潔にすることです。とくに台所にある食品や調理屑、食べ残しなど、餌になるものをきちんと管理や始末しておくことが重要です。また、段ボールや新聞紙などが整頓されていない場所はゴキブリの潜み場所になります。こうした場所の整理整頓を行いましょう。



侵入を防ぐ

ゴキブリは屋外の配水管などにも生息しています。これらが流しや風呂場の排水口から、屋内に入ってくることがあります。このような場所には、必ず格子のついた栓をしておくことが必要です。また、段ボールなどに付着して持ち込まれることもありますので、注意して下さい。



トラップや薬剤による

(1) 粘着トラップは市販のものが簡単でよく使われ

ています。数をへらすのに便利な器具です。

(2) 薬剤には、ゴキブリに食べさせて巣にいるゴキブリまで駆除させる食毒剤というタイプがあります。

ゴキブリをよく見かける場所や棚の中に食毒剤を置く等、場所に合わせた物を選ぶと効果的です。

ただ、ご利用前には説明書をよく読んで用法用量を必ず守って下さい。